

確かな学力を目指した「総合的な学習の時間」の在り方

- 教科との関連に焦点を当てて -

「総合的な学習の時間」研究会議

稲毛 伸幸¹ 國廣 隆之² 山田 一樹³ 鈴木 克彦⁴ 森川 佳純⁵

要 約

今回の学習指導要領で創設された「総合的な学習の時間」は実施2年目を迎え、各学校において創意工夫しながら、実践を積み重ねている。川崎市の中学校においては、少しずつ成果を感じながらも、単元づくりの負担感、育てる力や評価についての迷いから、「総合的な学習の時間」の意義や価値を見いださきれていない現状が見られる。

そこで、本研究会議では、[生きる力]の知の側面である、「確かな学力」を育成するための「総合的な学習の時間」の在り方を探ることにした。

「総合的な学習の時間」のねらいである探究型の学力や学ぶ意欲の育成は、教科との関連を図りながら進めることが大切であり、教科と「総合的な学習の時間」を具体的に関連付けることが確かな学力の育成に結び付くのではないかと考えた。

市内2校の中学校区の小・中学校の「総合的な学習の時間」で共通する育てたい力や体験を整理し、小・中学校の連続性を意識しながら、教科の学習内容や資質・能力の関連を重視した教科関連的な単元のモデルプランを作成し提示する。

キーワード： 総合的な学習の時間、確かな学力の育成、育てたい力、教科との関連、
資質・能力の育成、小・中学校の連続性、教科関連的な単元のモデルプラン

目 次

主題設定の理由	170	(4)小学校との関連	173
研究の内容	170	3 「総合的な学習の時間」の単元開発	
1 中学校の「総合的な学習の時間」の		について	173
取組の現状と実施上の課題	170	(1) B中学校区にある1小学校・1中	
2 確かな学力を目指した「総合的な学		学校の単元の開発	174
習の時間」	172	(2) D中学校区にある3小学校・1中	
(1)確かな学力の育成に向けて	172	学校の単元の開発	181
(2)教育課程における「総合的な学習		研究のまとめ	183
の時間」の位置付け	172	参考文献	184
(3)「総合的な学習の時間」と各教科		指導助言者	184
等との相互関連	173		

¹ 川崎市立橋中学校教諭（長期研修員）

² 川崎市立今井小学校教諭（研修員）

³ 川崎市立向丘小学校教諭（研修員）

⁴ 川崎市立今井中学校教諭（研修員）

⁵ 川崎市立平中学校教諭（研修員）

主題設定の理由

小・中学校においては、昨年度より学習指導要領が全面実施され、新たに「総合的な学習の時間」が創設された。平成10年7月の教育課程審議会の答申において、各学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を一層できるようにするための時間を確保する必要がある、また、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむために、既存の教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習を実施できるような時間を確保する必要もあるといった趣旨からの提言による。

「生きる力」とは、今日の児童生徒をめぐる教育上の様々な課題、複雑な現代社会の課題や今後の変化の激しい社会に柔軟に対応し、主体的に「生き抜く力」である。

21世紀に生きる川崎の子どもたちにとっても、市内の外国人市民とのかかわり、多摩川をはじめとする環境保護や環境問題等、身近な社会的な課題とすり合わせながら、自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、豊かな人間性を育成することが重要であると考え。このことから、川崎の学校教育においても、新たに創設された「総合的な学習の時間」は極めて重要な役割を担うと考える。

今年度は、「総合的な学習の時間」実施2年目を迎え（高等学校においては今年度から実施）、各学校において創意工夫しながら実践を積み重ねているところである。単元開発の創意工夫や教師間の連携、児童生徒の学習意欲の向上などについての肯定的な意見がある中、中学校においては、「総合的な学習の時間」のねらいの理解やその具体化、また、実施のための組織や体制づくりなどについての各学校の取組や意識の差は大きい。

そこで、平成12年度川崎市総合教育センター研究紀要「『総合的な学習の時間』で培う力」で例示された、小・中学校9年間を見通した培う力の系統性、平成13年度川崎市総合教育センター研究紀要「教科と『総合的な学習の時間』の関連を図った教育課程の編成 - 資質・能力に着目した関連を目指して - 」における教科と「総合的な学習の時間」の関連を図ることの必要性を踏まえることにした。特に、教科で育成した資質・能力と「総合的な学習の時間」で培う力との関連付けについての研究を出発点とし、川崎の中学校における「総合的な学習の時間」の取組の現状を整理し課題をとらえ、ねらいを再確認しながら、より川崎らしい「総合的な学習の時間」の在り方を探っていくことにした。

本研究会議では、今回の学習指導要領のねらいである「生きる力」の三つの側面である、「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の中の、特に「知」の側面である「確かな学力」の充実や向上を図るための「総合的な学習の時間」の授業について、教科との関連に焦点を当て研究を進めることにし、次のような研究主題を設定した。

確かな学力を目指した「総合的な学習の時間」の在り方
- 教科との関連に焦点を当てて -

研究の内容

1 中学校の「総合的な学習の時間」の取組の現状と実施上の課題

ベネッセ未来教育センターが、平成14年9～10月に全国14地区の小・中学校の管理職、教諭を対象として実施した「第3回学習指導基本調査」による調査報告書¹⁾を参考に、中学校の「総合的な学習の時間」の取組の現状を探ってみた。「総合的な学習の時間」の標準時数についての意見では、小学

¹⁾ベネッセ未来教育センター 研究所報 V o l . 3 1 「第3回学習指導基本調査報告書」pp.62-65

校の教師は、「時数は削減したほうがよい」「なくしてもよい」合わせて64.0%である。一方、中学校の教師は、「時数は削減したほうがよい」「なくしてもよい」合わせると74.2%と全体の7割強である。また、「総合的な学習の時間」を導入した結果、小・中学校ともに負担感を感じていること、テーマ設定や実施方法に悩んでいること、基礎学力の定着の時間が削られたと思っていることなどが読みとれる。特に、中学校においては、肯定的な回答の割合が比較的低く約7割の教師が、基礎学力の時間が削られたと思っており、全体的に「総合的な学習の時間」の成果や価値を見いださきれていない傾向が読み取れる。以上の調査報告書と考察から、中学校における「総合的な学習の時間」が小学校の「総合的な学習の時間」に比べ、成果や価値を見いだしにくい理由を探ることにした。

そこで、中学校において、「総合的な学習の時間」を実施している上で課題になっていることを川崎市教育委員会の調査資料等をもとに、整理してみることにした。

表1から、実施2年目の川崎市内の中学校における「総合的な学習の時間」の実施上の課題として、「生徒の課題設定に関する課題」「学習評価に関する課題」「校内の施設設備に関する課題」が上位に挙げられる。上位3つの課題について考えられることを、本研究会議の研修員や市内の他の中学校の、「総合的な学習の時間」の実践や現状をもとに、次のようにまとめてみた。

表1川崎市の「総合的な学習の時間」の実施上の課題²⁾

	小学校	中学校
① 年間指導計画作成に関する課題	28%	17%
② 生徒の課題設定に関する課題	82%	61%
③ 教職員の指導体制に関する課題	39%	33%
④ 地域の人材確保に関する課題	35%	29%
⑤ 校内の施設設備に関する課題	21%	55%
⑥ 地域の公共施設等に関する課題	6%	18%
⑦ 校外学習の安全確保に関する課題	33%	31%
⑧ 学習評価に関する課題	48%	55%
⑨ その他	1%	4%

生徒の課題設定に関する課題

- ・どのような課題を設定させればよいのか分からない。
- ・課題を設定しても調べ学習で終わってしまう。
- ・生徒の課題発見の力を育てるための手法に不慣れである。
- ・生徒に課題発見の力が十分に身に付いていない。

学習評価に関する課題

- ・評価する以前に、育てるものがよく分からない。
- ・何をどう評価したらよいか分からない。
- ・評価規準や評価方法などが曖昧になりがちである。

校内の施設設備に関する課題

- ・学年や学校全体で同時に取り組む割合が高く、校内の施設設備を利用する上での調整が難しい。

「生徒の課題設定に関する課題」「学習評価に関する課題」からは、川崎市の中学校の「総合的な学習の時間」で育てるものがはっきりしない。つまり未だ、資質・能力の育成につながっていないことが要因ではないかと考える。以上の調査結果や考察、本研究会議の研修員や市内の他の中学校の、「総合的な学習の時間」の実践や現状などから、川崎市の中学校における「総合的な学習の時間」実施上の課題を、次のようにまとめた。

生徒の課題設定、課題追究、施設設備の面などを考えながら、学年で共通した単元を開発したり、学年全体で取り組んだりすることが難しい。

教科担任制で進められているため、教科の横断的な単元を開発する方法に慣れていない。

教科の学習における学力を重視する傾向があり、「総合的な学習の時間」における資質・能力の育成、価値や必要性より、戸惑いの方が大きい。

以上の川崎市の中学校における「総合的な学習の時間」の現状や課題から、「総合的な学習の時間」のねらいのもと、確かな学力の充実や向上を目指すために、「総合的な学習の時間」における資質・能力の育成を目指す「総合的な学習の時間」の単元づくり、中学校における教科の横断に着目した「総合的な学習の時間」の単元づくりなどについて、研究を進めることにした。

²⁾川崎市教育委員会 平成15年5月1日「学校の教育活動等の取組に関する調査」

2 確かな学力を目指した「総合的な学習の時間」

(1) 確かな学力の育成に向けて

文部科学省は、[生きる力]の知の側面である「確かな学力」を、学習指導要領における基礎的・基本的な内容の確実な定着と、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力と示している。その知の側面の「確かな学力」とは、知識や技能だけではなく、問題解決能力、課題発見能力、思考力、判断力、表現力、学び方、自ら学ぶ意欲などを含むものであることから考えると、「総合的な学習の時間」においても、それらの資質・能力の育成を重視した学習を行い、各教科等とともに、確かな学力の育成を目指すことが必要であると考え。

(2) 教育課程における「総合的な学習の時間」の位置付け

教育課程とは、各学校において、地域や学校の実態を踏まえ、育てたい子ども像をもとに、各学校の教育理念や教育目標を設定し、その理念や目標に向かって、具体的にどのような教育活動を編成し教育目標を達成していくのかを明らかにしたものである。この教育課程は、各教科、道徳、特別活動とともに、「総合的な学習の時間」によって編成されることから、各学校では、各教科等と「総合的な学習の時間」が両輪となるべく教育課程を編成し、一対となって密接に機能し、確かな学力を目指さなければならないと考える。そこで、本研究会議では、山極隆（玉川大学）の考えを参考に、教育課程における「総合的な学習の時間」の位置付けを、図1のように整理してみた。

選択教科と「総合的な学習の時間」

中学校においては、各学校の主体的な判断により、生徒の特性等に基づく多様な学習活動を幅広く展開できる時間として、選択教科がある。選択教科の内容については、生徒の能力・適性、興味・関心等に応じ、課題学習、補充的な学習や発展的な学習が示されている。さらに、選択教科は、当該教科固有の目標の達成を目指す学習活動、つまり、教科固有の知の形成を図るものであり、「総合的な学習の時間」とは異なる部分である。その上で、教育課程を編成していくことが重要となる。

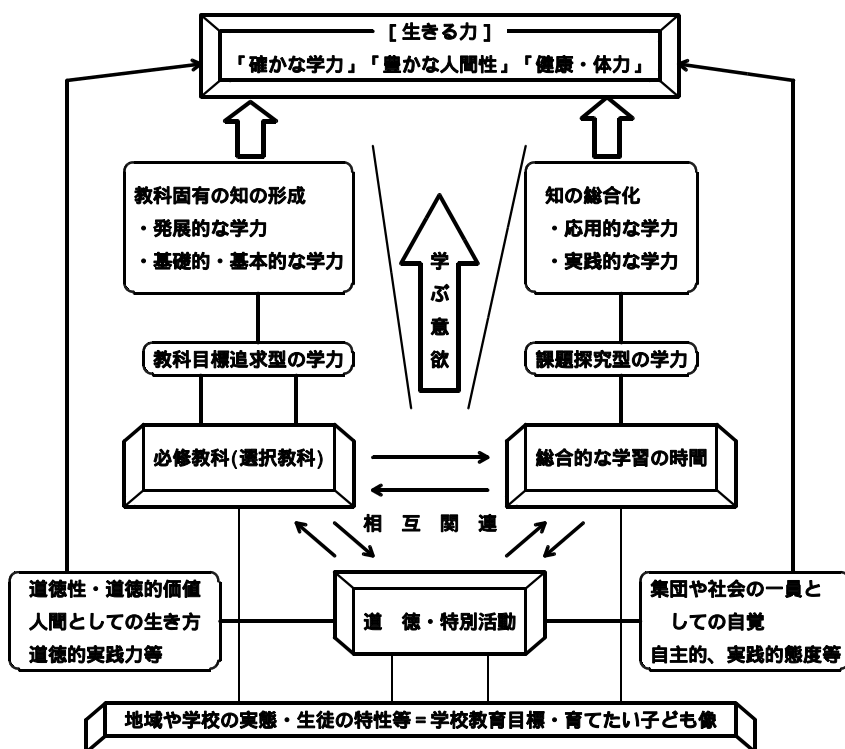


図1 教育課程における「総合的な学習の時間」の位置付け

道徳と「総合的な学習の時間」

道徳の目標を踏まえ、道徳教育と相互関連できるような関連が必要である。例えば、「総合的な学習の時間」での様々な体験的な学習との関連を、道徳の中で生かし、道徳の中で学んだ価値観を「総合的な学習の時間」で実感していくこと等が考えられる。

特別活動と「総合的な学習の時間」

「総合的な学習の時間」の学習活動は、体験を重視した特別活動の学習活動と重なる部分を多くもつ。活動上では判断できないものが多いが、どちらのねらいかを明確にすることで、関連するものと特別活動で行うものとを分ける必要がある。

(3) 「総合的な学習の時間」と各教科等との相互関連

そこで、「総合的な学習の時間」と各教科等の関連を図2のようにまとめた。

このように、「総合的な学習の時間」と各教科等に関連付けることにより、「総合的な学習の時間」の学習活動の中で、学んだことの意味を実感したり、学ぼうとする意欲が高まったりすると考える。

また、各教科等の学習の中で

「総合的な学習の時間」で育成された力の充実が図られたり、学習活動を通して得た感じ方や見方が深化したりすると考える。そのことが、これからの世の中に生きていくために必要な、課題探究型の学力(資質・能力)の育成、知の総合化(学校で学ぶ知識と実生活を結び付ける)、さらに、学びの根底となる、学ぶ意欲の育成につながり、確かな学力に結び付いていくと考える。

以上のことから、「総合的な学習の時間」と各教科等においては、相互に関連を図りながら、確かな学力を含めた[生きる力]を育てるための、教育課程を編成しなければならないと考える。

(4) 小学校との関連

中学校においては、中学校区内にある小学校の「総合的な学習の時間」の取組、具体的には、中学校区にある小学校の学校教育目標や育てたい子ども像、「総合的な学習の時間」の位置付けや体験などの情報を収集し整理しておくことが必要になる。「総合的な学習の時間」のねらいを、小・中学校の7年間を通して計画的に達成することを考えた場合、中学校区にある各小学校との情報交換の場をもち、共通する育てたい力の系統性、体験のねらいや活動内容のつながりなどについて整理し、連続性を意識しながら力の育成を図ることが必要になる。

3 「総合的な学習の時間」の単元開発について

そこで、平成12年度川崎市総合教育センター研究紀要「『総合的な学習の時間』で培う力」、平成13年度川崎市総合教育センター研究紀要「教科と『総合的な学習の時間』の関連を図った教育課程の編成 - 資質・能力に着目した関連を目指して -」の研究をもとに、単元開発の手順を考える。

中学校区の小・中学校の「総合的な学習の時間」で育てたい力をとらえる。

中学校区の小・中学校で育てたい力(共通する育てたい力)を整理する。

「総合的な学習の時間」で育てたい力の系統表を作成する。

中学校区の小・中学校の「総合的な学習の時間」の体験や学習活動の見直しをする。

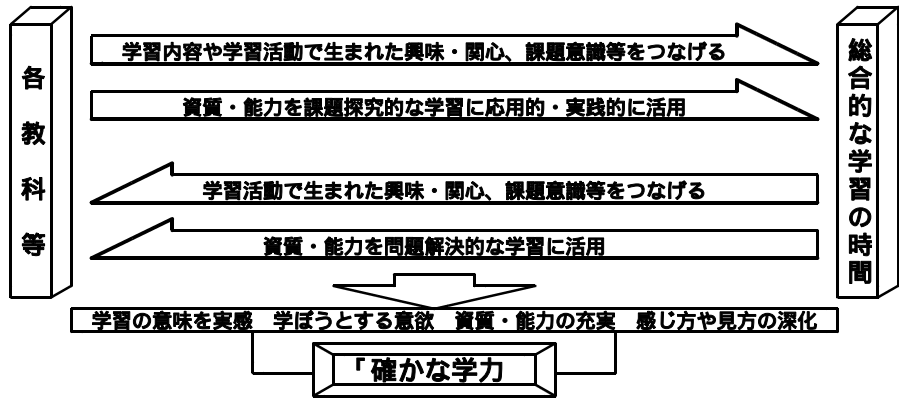


図2 「総合的な学習の時間」と各教科等との相互関連

「総合的な学習の時間」の単元における育てたい資質・能力を明確にし、教科との相互関連を考えた単元のモデルプランを作成する。

その際、教科担任の専門性を生かしつつ、協力体制がとれるような単元開発が必要である。数教科の担任が中心となり、複数教科の学習内容、資質・能力などを相互に関連付けた、教科横断的、複数教科関連的な「総合的な学習の時間」の単元開発の必要性もあると考える。

上記の ～ の手順で、次の2中学校区の「総合的な学習の時間」の単元開発を行い、提示する。

- 1 小学校・1中学校の場合の「総合的な学習の時間」の単元開発（環境をテーマにした単元）
- 3 小学校・1中学校の場合の「総合的な学習の時間」の単元開発（共生をテーマにした単元）

（1）B中学校区にある1小学校・1中学校の単元の開発

A小学校・B中学校の「総合的な学習の時間」で育てたい力をとらえる

[A小学校]

[B中学校]

<p>学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> みずから学ぶ子ども ・心も体もつよい子ども ・進んで学習する子ども ・思いやりのある子ども <p>「総合的な学習の時間」で育てたい力</p> <p><u>自ら学ぼうとする力</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体性 ・課題設定能力 ・問題意識 ・問題追究能力 ・情報収集活用能力 <p><u>かかわり合おうとする力</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人とのかかわり (友だち、地域の人、先生など) ・ものとのかかわり (地域にあるもの 自然など) ・コミュニケーション能力 <p><u>自分を高めようとする力</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の生き方 見つめる 振り返る 考える 高める ・表現力

<p>学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び 深く考える人になるう ・向上心を持ち 正義を愛する人になるう ・思いやりがあり 信頼される人になるう <p>「総合的な学習の時間」で育てたい力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を愛し 地域の一員として地元に貢献できる人間の育成 <u>主体性</u> ・意欲 ・主体的、創造的態度 <u>課題をつかむ力</u> ・発見する力 ・課題設定能力 ・発展的に課題をとらえる力 <u>探究する力</u> ・課題を解決する力 ・調べる力 ・情報活用能力 ・計画する力 ・問題解決の能力 <u>表現する力</u> ・コミュニケーション能力 ・表現力 <u>実践する力</u> ・知識を応用し総合する力 ・実践する能力 <u>人との関わり</u> ・コミュニケーション能力 ・協力性 ・人とかかわり合う力
--



上記の は、両校の「総合的な学習の時間」で育てたい力をとらえたものである。これをもとに、両校で育てたい力（共通する「総合的な学習の時間」で育てたい力）を整理し、見いだしたものが、の、両校に共通する育てたい力である。その中で、課題をつかむ力とは、課題発見の力とともに、解決に向けて見通しをもつ力であると、とらえていることが共通理解された。

A小学校・B中学校で育てたい力（共通する「総合的な学習の時間」で育てたい力）の整理

<p>自ら学ぼうとする力...身近な事象に関心をもち、進んで探ろうとする力</p> <p>課題をつかむ力...身近な事象から課題を見付け、解決に向けて見通しをもつ力</p> <p>課題を追究する力 情報を収集し活用する力...目的に合った情報を収集し、必要な情報を選択する力</p> <p>情報をまとめ表現する力...目的に応じ適切に情報をまとめ、明確に表現する力</p> <p>かかわり合う力...他とのかかわりを大切に、自分を高めようとする力</p>
--

次に、両校の「総合的な学習の時間」で育てたい力の9年間（小学校第1学年・第2学年生活科を含む）を整理したものが、の表である。の系統表を作成するに当たり、各教科の学習指導要領を参考にし、教科で育てる力を関連させる。

A小学校とB中学校の「総合的な学習の時間」で育てたい力の系統表の作成

学 年	(小) 1 年	(小) 2 年	(小) 3 年	(小) 4 年	(小) 5 年	(小) 6 年	(中) 1 年	(中) 2 年	(中) 3 年	学 年
課題をつかむ力	身近な人や自然などから知りたいこと、やりたいことを見付ける 身の回りの変化に気付く 観察や体験から不思議を見付ける	身近な事象を比較しながら違いや共通点を見いだす 身近な事象の変化とその要因を関連付けて問題を見付ける 観察、取材や体験から自分なりの課題を見付ける 自分の経験を生かして解決方法を考える 課題追究の中から次の発見や疑問を見付ける	相手の立場や広い視野に立ち課題を見付ける 身近な事象の変化とその要因を関連付けて問題を見付ける 見いだした課題を計画的に追究する視点をもつ 解決に向けて見直しをもつ 課題追究の中から次の発見や疑問を見付ける	社会の様々な問題を様々な視点から考え自分にとっての課題を見付ける 解決すべき問題を把握し、課題解決の理由や追究のねらいを明確に設定する 課題追究の中から、次の発見や疑問を見いだし課題を見付ける	課題をつかむ力					
情報を収集し活用する力	必要なことを先生、家族、友達から聞く 身の回りや本、図鑑からさがす 大事なことを落とさずに聞く	一番聞きたいことを質問する 地域の色々な人から聞く 必要な情報を選ぶ メモを取りながら聞く	計画的に情報収集する 必要な情報を得るために図書館を利用する 資料収集したもつからあてに合った情報を選択する 相手の思いや願いを意図しながら話しを聞く	目的に応じ、広い視野で多面的に情報を収集する 目的に合った具体的な情報収集の視点や方法を考え、計画を立てる 様々な情報手段、取材、体験などから情報を収集し、自分の課題探究に必要な情報を選択する 常に見直しをもつて情報や資料を収集する	情報を収集し活用する力					
情報をまとめ表現する力	気付いたことや楽しかったことを自分なりに工夫して伝える 事例の順序を考えながら相手に分かるように話す	集めた情報について必要な事柄を考え 疑問に思ったことを調べてまとめる 伝えたいことを選び筋道を立てて話す 相手や目的に応じ、適切な言葉遣いで話す	事象と感想、意見などを区別してまとめる 自分の考えを明確にして発表する 自分の考えを明確に伝えるため話の組立てを工夫して発表する 必要な資料を提示しながら発表する	自分の立場を明確にして発表する 図、グラフ、写真、提示資料を効果的に活用したまとめ方を工夫する 伝えたい事実を明確にして、自分の主張とそれを裏付ける資料を準備する 探究し考察した過程や結果とともに相手に自分の意見や主張が正確に伝わるように話の組立てを工夫する 最も効果的な表現方法を考え発表する	情報をまとめ表現する力					
かかわり合う力	友達や地域の良い所を目指す 友達と力を合わせて活動する 友達の話を聞いて分からないことを尋ねる 地域の人やものと触れ合う機会をもつ	様々な考え方の違いや共通点に気付く 友達と教え合いながら自分の考えに生かす 目的や必要に応じ、進んで地域の人やものとかわる	友達と話し合ったりし互いを支え合う 友達の良い所を見付けより良い関係をつくる 地域の人やものとかかわり大切にする	相手の立場や考え方を尊重し、仲間と協力しながら問題を考えたり解決したりし、自分を見つめ直す 学習を生かして、より良い社会づくりに向けて実際の行動に移す 自分と異なる意見を聞いて、自分の考えを広めたり深めたりする 地域社会の一員として、積極的に地域や社会の人々との触れ合いをもつ	かかわり合う力					

A小学校・B中学校の「環境」単元の体験や学習活動の見直し

A小学校・B中学校共に「総合的な学習の時間」において、「環境」をテーマに取り組んでいる。そこで、「環境」に関係する両校の体験や学習活動を取り上げ、単元とそこで育てたい見方や考え方について、学年間や小・中学校間の連続性を図るために見直しをしたものが、次のものである。

[A小学校 第3学年]

単元名「大好き！とんもりやと」

体験や学習活動...とんもりやとで様々な自然と触れ合い、とんもりやとの魅力をさらに探る。「とんもりやとの自然を守る会」の方の話を聞く。

育てたい見方や考え方...自然に親しみや愛情をもち、自然環境に対する認識を深める。

[A小学校 第4学年]

単元名「平瀬川を歩いて」

体験や学習活動...平瀬川の源流や下水道処理施設の見学をする。炭を利用した浄化実験や竹炭を作る。

単元名「 の町の環境を考えよう」

体験や学習活動...地域に出て、昔と今の環境に関する取材を行い、環境エネルギー館の見学を行う。

育てたい見方や考え方...自然に親しみや愛情をもち、身の回りの環境への認識を深める。

身の回りの環境に関する問題に気付き、課題意識をもつ。

[A小学校 第5学年] ~ [A小学校第6学年]

単元名「住みやすい町にするために」

体験や学習活動...八ヶ岳と自分たちが住んでいる地域との環境の違いを取材や体験で比較する。

単元名「 環境会議 ~自分たちが環境を守るう~」

体験や学習活動...住みやすい町にするための取組内容を考え、実行する。

東京電力エネルギー教室へ見学に行き、原子力エネルギーについて学習する。

育てたい見方や考え方...住んでいる地域の環境に関する様々な問題に気付き、課題意識をもつ。

[B中学校 第2学年]

単元名「環境学習」

体験や学習活動...生田緑地、平瀬川、とんもりやとの見学や観察などの学習や体験を通して、小学校で学んだ内容や学習体験を振り返り、環境についての課題意識を喚起する。

様々な視点からエネルギー問題と自然環境や生活との結び付きについて学習し、様々な視点から資源やエネルギーに関する問題点をとらえ直し解決すべき課題を見付ける。

課題追究の過程で資源やエネルギーに関する新たな事実や問題点を探り、より良い解決方法を検討する。

育てたい見方や考え方...自然環境の保全やより良い生活環境の実現を目指し、エネルギー問題と自分たちの生活とのかかわりについての課題意識をもつ。

単元のモデルプランを作成するにあたって、次のような視点で形式を提示している。

< 「総合的な学習の時間」の単元のモデルプランの形式 >

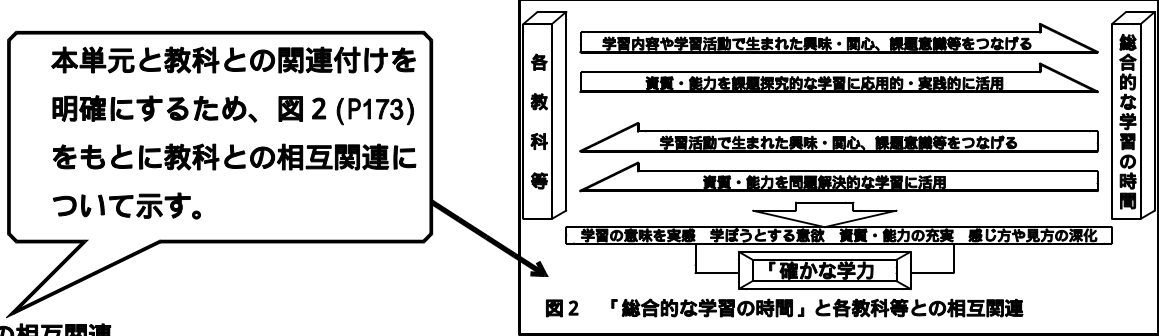


図2 「総合的な学習の時間」と各教科等との相互関連

教科との相互関連

本単元の題材である、とんもりやとは学区にあり、森や小川、湿地、人工ビオトープなど自然の宝庫といえる。そのとんもりやとでの学習活動を広げるために、3年生で学習する... 習から得たものの見方や考え方を活用できればと考えた。以... とした。

教科の学習内容や学習活動から生まれた児童の興味・関心... つなげる。

教科で得た資質・能力を「総合的な学習の時間」の学習活...

- 1. 単元名 第3学年『大好き！とんもりやと』
- 2. 単元のねらい

とんもりやとに親しみをもち、とんもりやとを探る活動や、「...」を大切にしようとしている地域の方々とのかかわりの中で、自然... いての見方や考え方を育てる。

3. 育てたい資質・能力

課題をつかむ力

...とんもりやとに関心をもち、観察や体験を通してその魅力や秘密を見付ける力

情報を収集し活用する力

...自分が関心をもったとんもりやとの魅力や秘密を探るために必要な情報を集めたり、生かしたりする力

情報をまとめ表現する力

...自分が集めたとんもりやとについての情報が必要な事柄かを考え、整理し、まとめる力

かかわり合う力

...とんもりやとの魅力や秘密を探るために、進んで地... かわったりしようとする力

4. 本単元と教科との具体的な関連

4. 主に既習の教科の学習での興味・関心、課題意識との関連付け、教科で得た資質・能力との関連付けなどを図るため、その意図について示す。

5. 本単元で育てたい資質・能力と、「育てたい力の系統表」をもとに考えた具体的な評価規準を示す。

2. 学年間、小・中学校間の連続性を図るため、本単元の体験や学習活動で育てたい見方や考え方の視点を入れる。

3. 本単元で育てたい資質・能力を明確にし、「育てたい力の系統表」をもとに、それぞれの資質・能力における具体的な力を示す。

5. 本単元で育てたい資質・能力と教科で得た主な資質・能力を関連付けるための具体的な支援を示す。

5. 単元の構想（学習の流れ）（35時間扱い）

	時	主な学習活動	育てたい資質・能力と具体的な評価規準	関連する教科と関連付けるための支援
見 つ め	1 ~ 5	とんもりやとで遊ぼう ・いつ来ても楽しいな。 ・ザリガニつかまえたよ。 ・やっぱりとんもりやと大好き！ ・カマキリがいっぱいいる場所を知っているよ。	課題をつかむ力 観察や体験から自分のやりたいことを見付けている。	<理科3年> 五感を使って観察する力 とんもりやとで体験する際に、自分の目で見たり、耳で聞いたり、においを嗅いだり、手で触ったりする中で、発見の幅を広げさせていく。

次に、「環境」単元における育てたい見方や考え方の連続性、「総合的な学習の時間」と教科との相互関連を考えた、A小学校、B中学校の環境単元モデルプランを提示する。

A 小学校第3学年「大好き！とんもりやと」環境単元モデルプラン（10月～11月）

教科との相互関連

本単元の題材である、とんもりやとは学区にあり、森や小川、湿地、人工ビオトープなど自然の宝庫といえる。そのとんもりやとでの学習活動を広げるために、3年生で学習する理科の「生き物たんけん」の様々な学習や体験、学習から得たものの見方や考え方を活用できればと考えた。以上のことから、教科との相互関連の視点を次の2つとした。

教科の学習内容や学習活動から生まれた児童の興味・関心、課題意識などを「総合的な学習の時間」の単元につなげる。

教科で得た資質・能力を「総合的な学習の時間」の学習活動で、応用的・実践的に活用する。

1. 単元名 第3学年『大好き！とんもりやと』

2. 単元のねらい

とんもりやとに親しみを持ち、とんもりやとを探る活動や、「とんもりやとの自然を守る会」などの、とんもりやとを大切にしようとしている地域の方々とかかわりの中で、自然に愛情を持ち、身近な地域の自然環境の大切さについての見方や考え方を育てる。

3. 育てたい資質・能力

課題をつかむ力

…とんもりやとに関心を持ち、観察や体験を通してその魅力や秘密を見付ける力

情報を収集し活用する力

…自分が関心をもったとんもりやとの魅力や秘密を探るために必要な情報を集めたり、生かしたりする力

情報をまとめ表現する力

…自分が集めたとんもりやとについての情報が必要な事柄かを考え、整理し、まとめる力

かかわり合う力

…とんもりやとの魅力や秘密を探るために、進んで地域の人とコミュニケーションをとったり、自然とかかわったりしようとする力

4. 本単元と教科との具体的な関連

理科の学習では、1学期に生き物を扱う単元が多く、様々な場面や機会に生き物と触れ合ってきた。「生き物たんけんに出発だ」では、五感を使って春の自然に触れ、新たな発見の楽しさを体験したことにより、生き物への興味・関心が高まった。「たねをまこう」「チョウを育てよう」の学習を通し、さらに植物の育つ様子に興味をもったり、生き物を大切にしようする態度が育った。これらの単元で培った「自然の事物・現象の違いに気付いたり、比較したりする資質・能力」が、本単元での「見つめる」段階での活動に役立ち、積極的に植物や昆虫とかかわりながら、他の生き物の存在にも目を向け、たくさんの「すごい」「ふしぎ」を見付けられるのではないかと考えた。

5. 単元の構想（学習の流れ）（35時間扱い）

	時	主な学習活動	育てたい資質・能力と具体的評価規準	関連する教科と関連付けるための支援
見 つ め る	1 ～ 5	とんもりやとで遊ぼう ・いつ来ても楽しいな。 ・ザリガニつかまえたよ。 ・やっぱりとんもりやと大好き！ ・カマキリがいっぱいいる場所を知っているよ。 ・水が冷たかったよ。 ・探検したんだ。 ・キノコがあったけど毒キノコなのかな。 ・バッタが少しこわかったよ。 ・ヘビの死がいも見付けたよ。 ・川に入ったんだ。	課題をつかむ力 観察や体験から自分のやりたいことを見付けている。	<理科3年> 五感を使って観察する力 とんもりやとで体験する際に、自分の目で見たり、耳で聞いたり、においを嗅いだり、手で触ったりする中で、発見の幅を広げさせていく。
	6	とんもりやとの良さを発表しよう ・虫がいっぱいいてふしぎだから。 ・景色がすごくきれいだから。 ・お散歩が楽しいから。 ・広くていっぱい遊べるから。 ・川があって暑い時に入れるから。	かかわり合う力 発表を聞いて様々な考え方の違いに気付く、さらにやりたいことをもっている。	<国語3年> 身近な場所、自然などへの関心を育て気付いたことなどを表現する力 とんもりやとが大好きなわけをはっきりと表すために、自分が一番「すごい」「ふしぎ」と思ったことを思い起こさせたり、友達の考え方の良さに気付かせたりする。
	7 ～ 11	とんもりやとの魅力や秘密を見付けよう ・ザリガニがもう脱皮しそう。 ・ザリガニをつかまえたけど、逃がしたんだ。 ・メダカの学校の歌を歌いながら行く階段があったよ。 ・洞窟があったんだよ。 ・夏でも涼しいところがあるよ。 ・何でこんなにきれいになっている	課題をつかむ力 観察したり、事象を比較したりしながら違いや共通点を見付けている。	<理科3年> 比較して追究する力 異なる場所に目を向けさせ、比べてみるよう言葉かけし、自分なりの疑問をもてるようにさせていく。

		<p>んだらう。 ・何でとんもりやとが作られたの？</p>		
探 る	12 16	<p>「すごい」「ふしぎ」「なぜ」を探ろう ・お父さんが子どもの頃にもあったらしいよ。 ・とんもりやとに行くと虫がこわくなくなって好きになれるんだ。 ・この前とんもりやとに来ていたおばあちゃんは、昔の方が良かったと言っていたよ。 ・探検して発見したことがあるよ。</p>	<p>課題をつかむ力 とんもりやとで遊んだ経験を生かし、さらに魅力や秘密を探りながら、自分なりの課題を見付けている。</p>	<p><理科3年> 比較して追究する力 場所や生き物の比較、昔と今の比較等、視点をもって比較することで、課題を集約させる。</p>
深 め る	17 19	<p>「すごい」「ふしぎ」「なぜ」を伝えよう ・洞窟の入り口の秘密を探ったよ。 ・何でとんもりやとが作られたのか考えたよ。 ・竹の秘密基地をスケッチしたよ。 ・ザリガニを食べる虫がいるんだって。 ・木の実で絵を描いたんだ。</p>	<p>表現する力 自分がすごいと思ったことや疑問に思ったことをまとめ、話している。</p>	<p><国語3年> 知らせたい事柄を収集したり、選択したりして書く力 「すごい」「ふしぎ」と感じたことの具体的な事柄を収集したり、その理由を考えたりして書けるよう助言する。 話し方を工夫して発表する力 聞き手に分かりやすく伝えるために資料の提示の仕方や話す順序、話のポイントについて考えて発表するよう言葉かけする。 とんもりやとの自然を守る会の方をお呼びしてお話をさせていただく。</p>
	20 24	<p>「すごい」「ふしぎ」「なぜ」を探ろう ・昔よりもっときれいにしたくなったな。 ・またホテルが飛んでほしいな。 ・道がたくさんあるけど、どこにつながっているのかな。 ・もっと山の上の方がどうなっているのか知りたくなったな。</p>	<p>収集し活用する力 適切な音量や速さ、丁寧な言葉遣いでインタビューし、自分が一番知りたいことを聞いている。</p>	<p><国語3年> インタビューで尋ねたいことを決め、相手に分かるように適切な言葉遣いで話す力 インタビューで自分が何を聞きたいのかを予め確認させ、声の大きさや速さ、文末に気を付けて話をするよう助言する。</p>
広 げ る	25 34	<p>他のクラスの友だちに「ぼくの、わたしのとんもりやと」を伝えよう ・どんな方法で伝えようかな。 ・探検マップを作ろう。 ・おすすめスポットを絵で表すぞ。 ・スポットの紹介をしよう。 ・木の実を使った楽しい遊びをガイドブックにしよう。 ・とんもりやとの昔のことをインタビューして、今と比べよう。 ・とんもりやとのゴミを拾ってその数をグラフで表してみよう。 ・サワガニのハサミの大きさと居場所を地図とグラフで表そう。</p>	<p>情報をまとめる力 自分が調べた情報の中で、伝えたいことを選び、まとめている。</p> <p>表現する力 自分の考えが相手によく伝わるように、筋道を立てて話している。</p>	<p><算数3年> 落ちや重なりがないように項目を決め資料を分類整理してまとめる力 とんもりやとでの情報を整理する際に、項目を決めて表やグラフに表すと良いことを思い出させる。 長さの単位kmを用いて、具体的な道のりや距離を表す力 とんもりやとでの情報を整理する際に、長さの単位等を用いて数値化すると分かりやすいことを助言する。</p> <p><国語3年> 調べたことについて中身が分かるように筋道を立てて話す力 自分たちが一番伝えたいことを明らかにすることや、話の順序や資料の提示の仕方を工夫させるよう助言する。</p>
	35	<p>今までの活動を振り返ろう ・もっともっと遊びに行くぞ。 ・とんもりやと大好き！ ・ぼくたちの作った探検マップが役に立つといいな。 ・たくさんのが分かったよ。 ・インタビューはドキドキしたけどもう平気だよ。</p>	<p>課題をつかむ力 課題を追究していく中で、新たな発見をしたり疑問をもったりしている。</p>	<p><国語3年> 知らせたいことが分かりやすく書けたか確かめる力 書いたものやまとめたものを読み返し、落ちているところや分かりにくいところを見直すように言葉かけする。</p>

B 中学校第 2 学年「私たちにもできるエネルギー問題への取組」環境単元モデルプラン

(後期 週 2 時間扱い)

教科との相互関連

環境・エネルギー問題は、社会、理科などの教科で扱われているが、このような今日的課題については、限られた教科だけではなく、「総合的な学習の時間」の学習活動で扱うことで、総合的にエネルギー問題をとらえることができると思われる。また、各教科におけるエネルギー問題の学習は中学校では第 3 学年で扱われているものが多い。

そこで、「総合的な学習の時間」においては第 2 学年で扱い、エネルギー問題への興味・関心を喚起し、学習活動で生まれた課題意識を第 3 学年での各教科の学習に生かしたいと考えた。以上のことから、教科との相互関連の視点を次の 2 つとした。

「総合的な学習の時間」の学習活動で生まれたエネルギーに関する生徒の興味・関心、課題意識などを、教科学習におけるエネルギー問題の学習につなげる。

「総合的な学習の時間」の学習活動で身に付けた資質や能力を、教科における問題解決的な学習に生かす。

1. 単元名 第 2 学年「私たちにもできるエネルギー問題への取組 ～どんな節約ができるだろう?～」

2. 単元のねらい

今日の問題となってるエネルギー問題の原因や課題を様々な視点で考え、話し合い、追究していくことを通して、地域社会や地球環境に主体的にかかわっていくために、自分たちの生活から見つめ直すとする見方や考え方を育てる。

3. 育てたい資質・能力

情報を収集し活用する力…目的に合った情報を、見通しを持って様々な手段で収集する力

得られた情報から必要なものを判断し、正しく活用する力

情報をまとめ表現する力…自分の伝えたい事実を明確にして、自分の主張をまとめ、それを裏付ける資料を選択し準備する力

図、グラフ、写真などを効果的に活用したまとめ方を工夫する力

自分の意見が相手に正確かつ効果的に伝わるよう、資料提示を工夫しながら説得力のある話し方を

する力

課題をつかむ力…解決すべきエネルギー問題の所在を把握し、課題解決の理由や追究のねらいを明確に設定する力

これまでのエネルギー問題に関する追究学習を適切に自己評価し、新たな課題を見いだそうとする力

かかわり合う力…エネルギー問題に関する追究活動を生かし、より良い社会づくりに向けて実際の行動に移そうとする力

4. 本単元と教科や小学校の学習活動との具体の関連

今日的課題であるエネルギー問題について、生徒は授業の他、テレビや新聞などで耳にしており、興味や関心も高い。しかし、それらに関する情報はトップダウン式の情報が多く、自分たちの生活と結び付けて理解していない場合が多い。

そこで、本単元の学習活動を通して、育てたい資質・能力の育成を図り、環境・エネルギー問題を自分たちの生活と結び付けて考えさせ、その学習活動で得た環境・エネルギー問題に対する関心や実践的な態度、課題を探究する資質・能力を、社会、理科、家庭分野の学習内容や問題解決の力につながればと考えた。

小学校の環境に関する学習活動としては、3 学年で「とんもりやと」での観察、4 学年で近くの河川に関する学習および炭を利用した水の浄化実験、5 学年で川崎と八ヶ岳の自然比較および肥料づくりやグリーンマーク収集などを含めた環境会議を行っている。エネルギーに関しては、5 学年で校外活動で電気に関するエネルギー教室を行っている。また、自然観察や自然比較、水の浄化についても資源の保全という点でエネルギーにかかわることであり、肥料づくり等も、物質の循環やリサイクルにかかわることである。

5. 単元の構想 (3 1 時間扱い)

<見つめる段階> 個々の課題意識を高めながら学級全体でエネルギー問題を顕在化させる段階

時	主 な 学 習 活 動	育てたい資質・能力と 具体的評価規準	育てたい資質・能力への支援()と 今後関連する教科の資質・能力、見方や考え方
1 ～ 3	<p>私たちの生活のエネルギー問題について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活の中の環境・エネルギー問題について考えを出し合い、意見交換する。 	<p>情報をまとめ表現する力</p> <p>自分の立場を明確にして発言している。</p>	<p>正解不正解ではなく、自分なりの意見をもつことが大事であることを伝える。</p> <p>自分の考えをもち、相手の立場を理解して伝え合う力</p> <p><国語></p>
	<p><課題例> 「割りばしを無駄遣いしても木を切る量には影響ない」</p> <p>「歯磨きの時、水を出しっぱなしにしても水を使う量はあまり変わらない」</p> <p>「原子力発電は石油を使わないから資源の無駄遣いにはならない」</p> <p>「クリーンエネルギーとされている風力発電をもっと進めた方が良い」</p>		
4 ～ 8	<p>現在のエネルギー問題について調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ウェビングマップを参考にして、エネルギー問題の所在などに関する情報を集める。 	<p>情報を収集し活用する力</p> <p>目的に合った情報を、様々な手段で収集し、必要な情報を選択している。</p>	<p>エネルギー問題を環境や人間の生活に関連付けて調べるよう助言する。</p> <p>資料を適切に収集し、活用する力<社会><理科></p> <p>エネルギーの節約やリサイクルの必要性、その理由などについて考えるよう助言する。</p> <p>環境や資源に配慮した生活の工夫について考え実践する力</p> <p><技術・家庭 3 年></p> <p>集めた情報を整理する際に、図表やグラフを用いてまとめると分かりやすいことを助言する。</p> <p>情報を図や表に表す力</p> <p><社会><数学><理科></p>
	<ul style="list-style-type: none"> 戦後のエネルギー消費の変化 様々な国のエネルギー消費 身近な電気器具の消費電力 身近にあるリサイクルマーク 世界の様々な資源 様々な発電方法 1 日のゴミの量 等 	<p>情報をまとめ表現する力</p> <p>収集した情報を図表やグラフなどに適切にまとめている。</p>	
9 ～ 10	<p>現在のエネルギー問題について再確認しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたことを振り返りながら、グルー 	<p>課題をつかむ力</p> <p>エネルギー問題の所在を人間生活と結び付けてい</p>	<p>エネルギー問題の所在を人間の生活と関連付けて、線で結び付けるよう助言する</p> <p>エネルギー問題の所在を分析する力</p>

	ブヤクラスでウェビングマップ(エネルギー問題地図)をまとめる。	る。	<社会3年><理科3年>
--	---------------------------------	----	--------------

< 探る段階 > 個々の課題を自ら追究し解決する段階

11 ↓ 12	エネルギー問題地図を用いて課題づくりをしよう ・ウェビングマップを見て「解決しなければならないこと」や「私たちにできそうなこと」などについて話し合う。 <期待される反応> 解決しなければならないこと...森林の伐採をやめる・ダム建設・クリーンエネルギーの開発・化石燃料の節約 私たちにも解決できそうなこと...電気の節約・リサイクルを積極的に進める・冷暖房の設定温度を守る	課題をつかむ力 エネルギーに関する解決すべき問題点を、人間生活と結び付けて把握している。	エネルギー問題の所在から、人間の生活と関連付けて解決すべき箇所に着目させる。 エネルギー問題の所在を分析し、エネルギー消費を自分の生活と結び付けて考える力 <社会3年><理科3年><技術家庭3年>
13 ↓ 14	追究課題を決めよう ・各自で選んだ課題別に分かれ、グループで課題の意義や見通し、方法などについて話し合う。 <追究課題例> 「日常生活の中でどれくらい水を節約できるだろうか」 「日常生活の中でどれくらい電気を節約できるだろうか」 「ペットボトルのリサイクルは本当に資源の節約につながるのか」 「割りばしを使わないことはどれくらい森林資源の節約につながるのか」 「風力発電にするとどれくらい資源の節約になるのか。また、そのためのコストは？」	課題をつかむ力 解決すべき問題点を把握し、課題解決の理由や追究のねらいを明確に設定している。	課題解決に向けて、追究のねらいや方法が適切かどうか、言葉のやりとりをして考えさせる必要に応じ修正させる。 エネルギー問題の所在を分析する力 <社会3年><理科3年>
15 ↓ 22	エネルギーの節約に向けて課題の追究をしよう ・校外学習の計画を行い、アポイントメントなどを取る。 ・校内施設や校外施設を用いて追究活動を行う。 <課題追究の段階で教科学習に生かされるもの見方や考え方が育てられることが期待できる> 例) 電気を節約することで、化石燃料の節約につながる。 電気を節約することで、森林の保全につながる。 化石燃料を使わない発電がありエネルギーの節約や環境保全に役立つ。しかしコストがかかる欠点もある。 原子力の利用には利点も欠点もある。 水の節約は、自然界における水の循環を助ける。 森林を保全することは、地球温暖化防止に役立ったり、がけ崩れなどの災害を防ぐことに役立つ。	情報を収集し活用する力 目的に合った情報を、見通しをもって様々な手段で収集し、必要な情報を選択している。	見通しをもって必要な資料を集めるよう助言する。 資料を適切に収集し、活用する力 <社会><理科>
23 ↓ 26	追究活動をまとめ、私たちにもできる取組を考えよう ・各グループ別に活動結果や分かったことなどについてまとめる。 ・自分たちにもできるエネルギー問題への取組について話し合い、発表会の準備をする。	情報をまとめ表現する力 自分の伝えたい事実を明確にして、自分の主張をまとめている。 図、グラフなどを効果的に活用した表現方法を工夫している。	自分の考えだけでなく、資料から分かる事実を織り込んで主張するよう助言する。 自分の考えを分かりやすく伝える力 <国語> 相手意識をもたせ、図やグラフを活用すると分かりやすい報告書や発表になることを思い出させる。 図表を用いて分かりやすい報告書を作成する力 <国語><社会><理科>

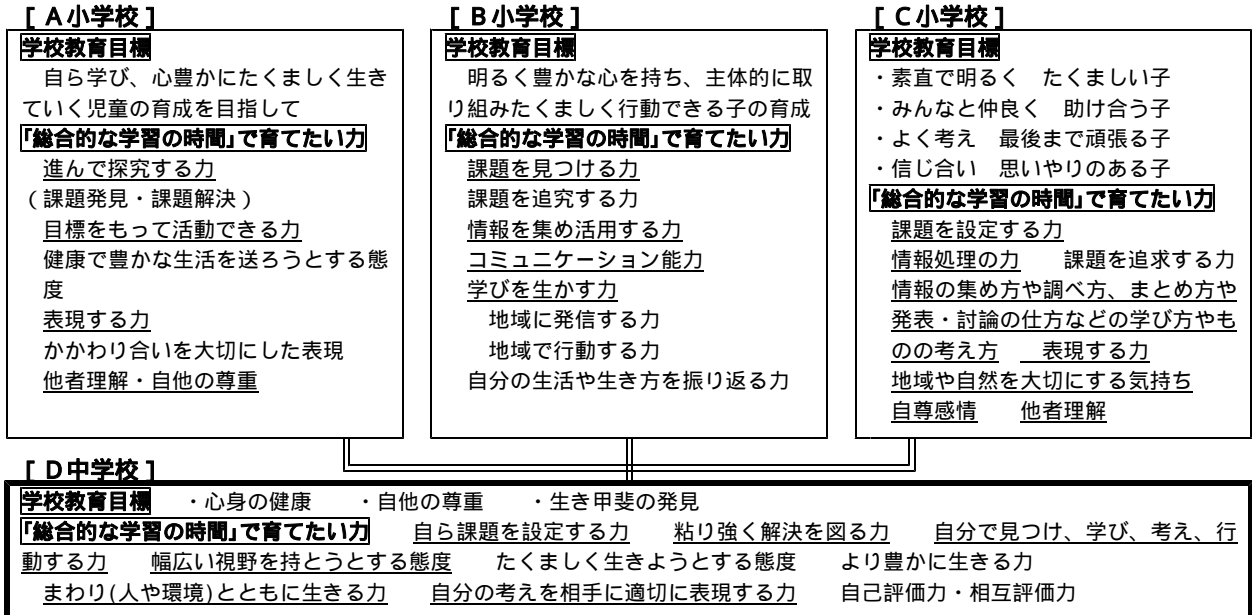
< 広げる段階 > 個々の課題追究を広く相手に伝えたり、その評価等をもとに新たな課題を見付ける段階

27 ↓ 28	私たちにもできる取組を発表しよう ・学級(学年)で発表会を行う。 ・各グループの発表について意見交換する。 <取組の例> 「必要最低限の水の使用を心掛け、水を出しっぱなしにしない」 「自家用車の使用をさげ、なるべく公共交通機関を利用するように各家庭で呼びかける」 「必要な明るさ、温度などに注意し節電を心掛ける」 「毎年、1人1本の植樹をする」 「缶やペットボトルはリサイクルされるように必ず決められた方法で決められた場所に回収する」	情報をまとめ表現する力 自分の意見が相手に効果的に伝わるよう、説得力のある話し方を工夫している。	原稿を読むだけでなく、声量、声色、視線身振りなど様々な工夫の視点を与える。 自分の考えを分かりやすく伝える力 <国語>
29 ↓ 31	これからの取組を考えよう ・これまで学習してきたことを振り返り今後の課題を考える。 ・新聞やポスターを作成し、掲示する。	課題をつかむ力 これまでの学習を適切に自己評価し、新たな課題を見いだしている。 かかわり合う力 自分たちにもできるエネルギーの節約についての取組を考え行動しようとしている。	言葉のやりとりを通して、自分の生活や行動を見直させる。 より良い社会づくりのためにエネルギーを大切に利用しようとする力 <社会3年><理科3年><技術・家庭3年> 限りある資源を有効に活用するためには生活の工夫や、世界の人々の意識の変化が必要である。 <社会3年><理科><技術・家庭>

(2) D中学校区にある3小学校・1中学校の単元の開発

B中学校区の1小学校・1中学校の単元開発と同じ手順で、4校の「総合的な学習の時間」で育てたい力をとらえ、これをもとに、4校で育てたい力(共通する「総合的な学習の時間」で育てたい力)を整理し、見いだしたものが、の、4校で共通する育てたい力である。

A・B・C小学校・D中学校の「総合的な学習の時間」で育てたい力をとらえる



4校で育てたい力(共通する「総合的な学習の時間」で育てたい力)の整理

自ら課題を見付ける力...身近な事象に目を向け、より良い生き方を考えた課題を見付ける力
課題を追究する力 情報を収集・選択する力...目的に応じ、適切な方法で必要な情報を収集・選択する力
情報を処理・表現する力...情報を適切に用い、自分の思いや考えを明確に表現する力
他(友だち・家族・地域)とかかわり合う力...進んでかかわり合い、自他を大切にしようとする力

次に、4校で育てたい力の9年間を整理し、「共生」の視点における育てたい見方や考え方の連続性、教科との相互関連を考えた、D中学校の共生単元モデルプランを提示する。

D中学校第1学年「外国の文化から学ぼう」共生単元モデルプラン(後期)

教科との相互関連

技術・家庭(家庭分野)「生活の自立と衣食住」の学習で身に付けた、生活の中で食事の果たす役割や、健康と食事とのかかわりについての関心や態度を、本単元につなげる。また、課題設定や課題探究などの学習活動の中で、国語や社会(地理的分野)の学習で得た力を活用できればと考え、教科との相互関連の視点を次の2つとした。

教科の学習内容や学習活動から生まれた生徒の興味・関心、課題意識などを「総合的な学習の時間」の単元につなげる。

教科で得た資質や能力を「総合的な学習の時間」の学習活動で、応用的・実践的に活用する。

1. 単元名 第1学年『外国の文化から学ぼう～様々な人との触れ合いから～』

2. 単元のねらい

様々な国の文化や生活などに関心を持ち、様々な人との触れ合いを通して、多様な文化や生活、習慣、考え方や価値観などを認識理解し、より良い人間関係の在り方についての見方や考え方を育てる。

3. 育てたい資質・能力

自ら課題を見付ける力...様々な国の文化や生活の背景や要因、習慣、価値観を多面的にとらえ、課題を設定する力

情報を収集・選択する力...取材などから様々な情報を集め、多面的・多角的に考え、自分の探究に役立てる力

情報を処理・表現する力...地図やグラフなどを効果的に活用したまとめ方を工夫する力

学習してきた過程や内容とともに、自分の考えや意見を分かりやすくまとめたり伝えたりする力

他とかかわり合う力...様々な人との触れ合いを通して、多様な価値観やかかわり合いの大切さを理解し、進んで交流の方法を工夫したり、より良い人間関係を築こうとしたりする力

4. 本単元と教科・小学校の学習活動との具体の関連

技術・家庭(家庭分野)A 生活の自立と衣食住の(1)中学生の栄養と食事、(2)食品の選択と日常食の調理の基礎の学習では、生活の中で食事の果たす役割や健康と食事とのかかわり、栄養と食事、生活の安全と衛生などに関心を持ち、食生活をより良くするために、学んだことを活用しようとする実践的な能力や態度を育てることなどをねらいとしている。

社会科(地理的分野)「地域の規模に応じた調査(2)ア 身近な地域」では、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法を考察する力、地理的なまとめ方や発表する方法の基礎を身に付けさせ、地域の発展に努力しようとする態度などを育てようとしている。そこで、これらの教科の学習で得た生徒の関心、資質・能力などを本単元で生かすことにより、本単元で育てたい資質・能力の育成につながればと考えた。

小学校では、第3学年の国語の教材「三年とうげ」(光村図書)の学習の発展として、「総合的な学習の時間」の単元で、ふれあい館の方の講演や韓国の文化体験などを行い、異文化に触れることで、多文化共生の視点を培おうとしている学校がある。中学校では、様々な食についての取材などの学習活動を切り口とし、様々な人との触れ合いを通して、多様な文化や生活、習慣、考え方や価

価値などを認識、理解し、進んでより良い人間関係を築き、共に生きていくという視点を養いたいと考えた。

5. 単元の構想(学習の流れ)(33時間)

	時	主な学習活動	育てたい資質・能力と具体的評価規準	関連する教科と関連付けるための支援
見 つ め る	1 ~ 2	健康と食事について考えよう ・食に関する新聞記事を見て、健康と食について話し合う。 ・国際交流センターのインターナショナルフェスティバルの写真を食文化について考える。 グループごとに様々な国の食についての情報を集めよう ・健康と食事のかかわり、食糧と輸出入のかかわりなど、様々な手段で様々な国の食に関する情報を集める。	<家庭分野1年> 食生活をより良くするために学んだことを活用しようとする態度 家庭分野「生活の自立と衣食住」で学習した、食事が果たす役割や健康と食事のかかわりについての関心や態度を導入につなげる。	
	3 ~ 5		収集・選択する力 食について学習したことを意識しながら、多くの情報から食に関する情報を選択している。	<家庭分野1年> 食生活をより良くするために学んだことを活用しようとする態度 家庭分野で得た食に関する様々な視点をもって様々な国の食についての情報を集めるよう言葉かけする。
探 る	6 ~ 8	世界の様々な食についての違いなどを考えよう『報告会』 ・様々な国の食に関する情報を地図やグラフなどにまとめ、その特色などについて話し合う。 世界の食について調べよう ・報告会で見いだした疑問などから課題を設定し、その理由などを考える。 ・考えた予想をもとに、食と健康栄養、衛生面、食糧の輸出入などについての課題については下調べをしておく。 ・取材先を紹介してくれそうな機関を調べ、アポイントメントの方法を考える。	処理・表現する力 食に関する情報を地図化し、その分布や広がり、特殊性などを見いだしている。	<社会1年> 地域の諸事象を位置や空間的な広がりとかかわりで見いだす力 様々な国の食に関する情報を世界地図に表し、その分布や広がりに着目させる。
	9 ~ 11		課題を見付ける力 様々な国の食に関する特色について、その背景や要因を多面的に予想している。	<社会1年> 見いだした地理的事象をもとに適切な課題を設定し環境条件や人々の営みと関連付けて考察する力 食の分布や広がり、輸出入についての発見や疑問を、自分の課題につなげるよう助言する。また、食の分布や広がりの背景や要因について、自然的条件だけではなく、他の視点でも考察するよう言葉かけする。
			かわさき・まなびのガイド2003 かわさき生活ガイド等 川崎市国際交流センター 各区市民館 川崎市ふれあい館 各大使館等	
	12 ~ 15	外国の方から食についての話を聞いてみよう ・食に関する疑問をもとに、調べたいことなどを聞く。 ・食以外の生活様式や習慣、日本に対する見方などを聞く。	収集・選択する力 取材などから様々な情報を集め、多面的・多角的に考え、自分の探究に生かしている。	<社会1年> 地理的事象を環境条件や人々の営みと関連付けて多面的・多角的に追究する力 その地域の食に関する特色を環境条件だけでなく様々な視点で取材できるよう事前に質問内容を点検し、新たな視点に気付くよう助言する。
深 め る	16 ~ 17	外国の方からもっと詳しく話を聞く準備をしよう ・取材から見いだした新たな疑問などから、新たな課題や質問内容などを考える。 外国の方からもっと詳しく様々な話を聞いてみよう ・自分の疑問や考えなどを伝え、外国の様々な文化や生活の様子その方の考え方などを聞く。 学んできたことを報告しよう ・発表会に向けて、今まで学んできたことなどをまとめる。 ・学級(学年)で発表会を行う。 ・各グループの発表について意見交換する。	課題を見付ける力 様々な国の文化や生活習慣、価値観、相互の結び付きなどから新たな課題を設定している。	<社会1年> 見いだした地理的事象をもとに適切な課題を設定する力 取材や報告会での発見や疑問を新たな課題につなげるよう言葉かけする。
	18 ~ 21		収集・選択する力 取材から様々な情報を集め、多面的・多角的に考え、自分の探究に生かしている。	<社会1年> 地理的事象を環境条件や人々の営みと関連付けて多面的・多角的に追究する力 多くの視点で聞き取らせるため、事前に質問内容を生徒同士、互いに検討させる。
	22 ~ 26		処理・表現する力 調べてきた過程や結果を地図やグラフなどを活用しながらまとめている。	<社会1年> 地理的なまとめ方や発表する力 学習の過程や自分の考えなどのまとめ方、地図やグラフの効果的な使い方など、生徒同士互いに見せ合わせたり、紹介したりする。
			処理・表現する力 外国の方から聞いた話などを交えながら、聞き手に正確に伝わるように話の組立てを工夫して自分の考えを発表している。	<国語1年> 自分の考えや気持ちを相手に理解してもらえよう話す力 外国の方などから聞いた話などを交えながら自分の考えを話すことが効果的であることに気付かせ、より分かりやすいまとめ方や発表の仕方の視点をもたせる。
広 げ る	27 ~ 30	お世話になった方を招待しよう ・お世話になった方にお礼の手紙を書き、招待状を送る。 ・おもてなしの内容を考える。 『インターナショナルフェスタ』 ・取材や体験でお世話になった方を招いて、おもてなしをする。	他とかかわり合う力 様々な人と触れ合うことの大切さ、そのことで互いの理解が深まることに気付き、交流の内容や方法を考えている。	<家庭分野1年> 食生活をより良くするために学んだことを活用しようとする態度 「食事を共にすることによって人と人との関係を深めることができる」 取材に応じてくれた方と触れ合いなどを想起させ、かかわり合うことの大切さに気付かせる。
	31 ~ 33			

研究のまとめ

「総合的な学習の時間」も移行期を含め、実施5年目が過ぎようとしている。本研究会議は、確かな学力を育成するための「総合的な学習の時間」について、資質・能力の育成、教科との相互関連、小・中学校のつながり、そのための単元開発を進めてきた。1年間の研究を進めてきた中で、価値ある「総合的な学習の時間」にしていくために、必要だと思われることが幾つか見えてきた。それは次のようなことである。

力の育成を図る学習活動にしていくために校内で育てたい力の共通理解をする。

「総合的な学習の時間」が体験や活動のみに終始することなく、確かな学力につなげていくためには、「総合的な学習の時間」のねらいや意義などを理解し合い、「総合的な学習の時間」の学習活動を通して資質・能力の育成を図るための共通理解をする必要がある。

資質・能力を育てるための中学校3年間の全体計画を作成する。

「総合的な学習の時間」における資質・能力は、3年間の学習活動を通して積み重ねながら、育てていく必要がある。そのためには、学校としての「総合的な学習の時間」の目標や内容、育てたい資質・能力などを明確にした3年間の全体計画を作成することが必要である。

教科担任制を生かした指導体制づくりや単元開発を行っていく。

中学校の教科担任制の良さを生かし、様々な教師の視点から、生徒一人一人の学びなどを情報交換し、各教科の学習内容や年間カリキュラム、「総合的な学習の時間」で育てたい力とのつながりを意識した授業など、共通理解を図れるような学年体制を工夫する必要がある。また、確かな学力の育成を図るために、数教科の担任が協力体制をとり、それぞれの教科の学習内容、資質・能力などを相互に関連付けた、教科横断的、複数教科関連的な「総合的な学習の時間」の単元開発を行っていく。

教科を関連付けるための具体的な支援を行っていく。

「総合的な学習の時間」の学習活動の中で、どのように教科と関連付けようとするのかを教師が明確にし、教科の学習で得た資質・能力などを生かすような具体的な支援を計画的に行っていく。

小・中学校の連続性を明確にし、それを踏まえた単元開発を行う。

中学校区の小学校からの「総合的な学習の時間」で育ててきた力、体験のねらいや学習活動のつながりなどについて整理するなど、小学校からの連続性を意識しながら単元開発することで、「総合的な学習の時間」での力の育成が積み重ねられていくと考える。

以上、この研究を通して見えてきたことであるが、今後の課題として、次のことが挙げられる。

「総合的な学習の時間」で育てたい力の系統表の妥当性を検討する。

中学校区の小・中学校の共通する育てたい力を9年間で整理したが、「総合的な学習の時間」の実践の中で、それぞれの学年の子どもの実態などとすり合わせながら見取り、より妥当性のあるものに作りかえていきたい。

教科を関連付けるための支援についての検証をする。

教科の学習で得た資質・能力を関連付けるための具体的な支援が、適切であるか、実践を通して検証していきたい。具体的には、その支援が「総合的な学習の時間」で育てたい力の育成につながっていたかを見取りたい。

「総合的な学習の時間」で資質・能力の育成を見取るための評価を工夫していく。

「総合的な学習の時間」で資質・能力の育成を評価するための方法や見取りを研究していく必要が

ある。

確かな学力を育成するための「総合的な学習の時間」の単元開発を進める。

教科担任制である中学校において、教科横断的、複数教科関連的な単元開発が、確かな学力の育成につながると考え単元開発を行ったが、さらに、様々な教科の横断的な単元開発を行っていきたい。

上記のように、今後の課題として、検討、検証を必要とするところを幾つも残している。また、平成15年の12月には、学習指導要領が一部改正され、「総合的な学習の時間」において、各教科等との関連付けが明記されたという現状もある。今後、課題の検討、検証を行いながら、確かな学力につながる「総合的な学習の時間」について、実践を通して研究を深めていきたいと考えている。

最後に、研究を進めるにあたり適切なご助言をいただきました先生方、研究にご支援、ご助言を下さいました学校教職員の皆様に、心より感謝し厚く御礼申し上げます。

【参考文献】

- 『小学校学習指導要領解説 - 総則編 - 』文部省 1999年
『中学校学習指導要領解説 - 総則編 - 』文部省 1999年
『高等学校学習指導要領解説 - 総則編 - 』文部省 1999年
天笠茂『小学校 新学習指導要領実践 新しい教育課程と学習活動の実際 総合的な学習』東洋館出版社 1999年
山極隆『改訂中学校学習指導要領の展開 総合的学習編』明治図書 1999年
柴田義松『教育課程 - カリキュラム入門』有斐閣コンパクト 2000年
川崎市総合教育センター研究紀要第14号「『総合的な学習の時間』で培う力」 2001年
高階玲治『講座 総合的学習と学力づくり 1 総合的学習の学力をどう育てるか』明治図書2001年
「総合的な学習の時間新設に伴う教育課程の特質と構造の変化に関する研究 - 総合的な学習の時間と各教科等の学習との相互関連の視点から - 」国立教育政策研究所 2002年
川崎市総合教育センター研究紀要第15号「教科と『総合的な学習の時間』の関連を図った教育課程の編成 - 資質・能力に着目した関連を目指して - 」 2002年
国立教育政策研究所教育課程研究センター『総合的な学習の時間 実践事例 (小学校編)(中学校編)』ぎょうせい 2002年
嶋野道弘『評価から考える「総合的な学習の時間」』教育報道出版社 2003年

【指導助言者】

- 玉川大学教授(川崎市総合教育センター専門員) 山極 隆
千葉大学教授 天笠 茂
川崎市立小学校「総合的な学習の時間」研究委員会委員長(川崎市立東桜本小学校長) 川嶋 友子
川崎市立中学校教育研究会総則部会長(川崎市立白山中学校長) 中野 恵子
川崎市立南加瀬中学校長 下田 照雄
川崎市教育委員会学校教育部指導主事 川崎 等
川崎市総合教育センター指導主事 葉倉 朋子